

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式／インデックス型	
信託期間	無期限（設定日：2023年8月23日）	
運用方針	SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、米国のナスダック市場に上場する、時価総額上位100銘柄（除く金融業）の時価総額加重平均によって算出されるNASDAQ100インデックス（配当込み、円換算ベース）の値動きに連動する投資成果をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド（ペーパーファンド）	SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
組入制限	当ファンド（ペーパーファンド）	投資信託証券（マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。株式への直接投資は行いません。
	マザーファンド	投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。外貨建資産への投資割合には制限を設けません。株式への直接投資は行いません。
分配方針	年1回（毎年8月22日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価損益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。収益分配にあてなかつた留保益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

運用報告書（全体版）

第1期

（決算日：2024年8月22日）

SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・ファンド （愛称：雪だるま(QQQ・NASDAQ100)）

追加型投信／海外／株式／インデックス型

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・ファンド（愛称：雪だるま(QQQ・NASDAQ100)）」は、2024年8月22日に第1期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
<https://www.sbiam.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率		期中 騰落率		
(設定日) 2023年8月23日	円 10,000	円 —	% —	10,000	% —	% —	百万円 300
1期(2024年8月22日)	13,143	0	31.4	13,246	32.5	98.7	4,316

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) ベンチマークはNASDAQ100インデックス（配当込み）を委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注5) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
		騰落率		騰落率	
(設定日) 2023年8月23日	円 10,000	% —	10,000	% —	% —
8月末	10,301	3.0	10,303	3.0	101.7
9月末	10,029	0.3	10,030	0.3	99.5
10月末	9,783	△ 2.2	9,779	△ 2.2	99.1
11月末	10,727	7.3	10,740	7.4	98.8
12月末	10,933	9.3	10,955	9.6	99.7
2024年1月末	11,745	17.5	11,791	17.9	99.5
2月末	12,265	22.7	12,326	23.3	98.7
3月末	12,583	25.8	12,661	26.6	98.5
4月末	12,706	27.1	12,784	27.8	98.6
5月末	13,239	32.4	13,327	33.3	98.8
6月末	14,512	45.1	14,630	46.3	98.8
7月末	13,065	30.7	13,156	31.6	98.8
(期末) 2024年8月22日	13,143	31.4	13,246	32.5	98.7

(注1) 騰落率は設定日比です。

(注2) ベンチマークはNASDAQ100インデックス（配当込み）を委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注4) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

ベンチマーク：NASDAQ100インデックス（配当込み）（円換算ベース）

NASDAQ100インデックス（配当込み）とは、米国のナスダック市場に上場する、時価総額上位100銘柄（除く金融業）の時価総額加重平均によって算出される株価指数です。

なお、NASDAQ100インデックス（配当込み）（円換算ベース）は、NASDAQ100インデックス（配当込み）をもとに、委託会社が円換算したものです。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2023年8月23日から2024年8月22日まで）

○基準価額等の推移



(注1) ベンチマークは、NASDAQ100インデックス（配当込み）を委託会社にて円換算しています。詳細はP1をご参照ください。

(注2) ベンチマークは、設定日（2023年8月23日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

(注4) ベンチマークの値は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・金融環境の緩和期待
- ・米景気の軟着陸期待
- ・米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げにより、日米の金利差が拡大し、円安・ドル高傾向となったこと

下落要因

- ・米消費者物価指数（CPI）の上昇
- ・米公開市場委員会（FOMC）の政策金利引上げ
- ・米連邦準備理事会（FRB）の金融引締め長期化観測

○投資環境

<米国株式市場>

米国株式市場は、当期中大幅に上昇しました。設定当初、NASDAQ100指数は15,000近辺で始まり、2023年9月に米国債の格下げや堅調な米小売売上高などを受けた長期金利の上昇が嫌気されたことでハイテク株などが売られ、10月は米連邦公開市場委員会（FOMC）を受け高金利長期化観測が強まる中、長期金利が一段と上昇し、米政府機関閉鎖への警戒感も重しとなり、10月26日には一時期中最安値となる14,050台まで下落しました。11月に入り、FOMCで追加利上げが強く示唆されなかったことや、米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化から長期金利が低下し、年末にはNASDAQ100指数は17,900台まで大きく上昇しました。年明け後も、台湾半導体大手の決算などが好感されてハイテク株が買われ、2024年2月も米上場の英半導体設計大手や米半導体大手エヌビディアの好決算などから株式市場の上昇が続き、3月のFOMCで年内3回の利下げ見通しを維持したことなどから、3月21日の18,400台まで上昇が続きました。4月に入り、米CPIが一転して上振れし、米連邦準備理事会（FRB）高官から利下げに慎重姿勢が示され、中東情勢の懸念も強まり、4月19日に17,000割れまで下落しました。その後、雇用統計の下振れを受けて米長期金利が低下に転じる中、一部企業の決算も好感され反発し、米CPI鈍化を受けFRBの利下げ観測が強まったことやAI（人工知能）関連銘柄の上昇から連日史上最高値を更新し、7月10日には20,690台まで上昇しました。期末にかけては、大手ハイテク株への資金集中に懸念が強まり、物色対象の変化がある中、8月初旬に日本株急落や米失業率上昇を受けて米景気後退懸念が強まり一時大幅に下落しましたが、小売売上高が上ぶれたことから米景気後退懸念が和らいでNASDAQ100指数は上昇し、19,000台半ばで当期を終えました。

<外国為替市場>

当期、米ドル／円相場は円安に動きました。設定当初は1ドル145円後半で始まり、米消費者物価指数（CPI）の上昇が鈍化せず、米金利上昇を受けて円安傾向が続き、2023年11月中旬に151円台まで円安／ドル高が進みました。その後、米CPIの伸び鈍化、米景気減速への懸念や、植田日銀総裁の発言からゼロ金利解除期待が強まって円高／ドル安傾向となり、12月末には141円近辺まで円高が進行しました。年明け2024年1月は、能登半島地震を受けて日銀の金融政策の正常化観測が後退する中、円安／ドル高が進展しましたが、その後、米CPIや米生産者物価指数（PPI）の伸びが上振れし、米連邦準備理事会（FRB）による利下げ観測が一段と後退する中、2月末にかけて150円までドルが上昇しました。3月は日銀金融政策会合でのマイナス金利解除への期待感から146円半ばまで円高が進みましたが、発表後も緩やかな金融環境の継続が改めて意識され、中東情勢の懸念も重なり円が急落し、4月29日に一時160円台に達しました。その直後に介入と見られる動きから151円台後半まで円高／ドル安が進みましたが、イエレン米財務長官の為替介入をめぐるけん制発言や堅調な雇用統計を受けてFRBの利下げ観測が後退し米金利が上昇し、7月3日には37年ぶりの161円後半まで円安／ドル高が進行しました。その後期末にかけては、日銀の追加利上げ観測や米CPIの下振れを受けて円高／ドル安が進み、146円台前半で当期を終えました。

○当ファンドのポートフォリオ

<当ファンド>

主要投資対象であるSBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用を行いました。

<SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド>

NASDAQ100インデックス（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果を目標として運用を運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、インベスコ キャピタル マネジメント LLCが運用を行う「インベスコNASDAQ100ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、95%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は98.6%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

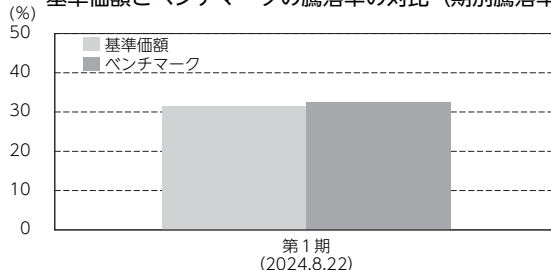
期中における基準価額は、+31.4%の上昇となり、ベンチマークである「NASDAQ100インデックス（配当込み、円換算ベース）」の騰落率である+32.5%を概ね1.1%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

基準価額とベンチマークの騰落率の対比（期別騰落率）



(注) ベンチマークはNASDAQ100インデックス（配当込み、円換算ベース）です。詳細はP1をご参照ください。

○分配金

当期の収益分配は、運用の効率性と基準価額の水準を勘案し見送ることといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第1期
	2023年8月23日～ 2024年8月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,142

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<当ファンド>

引き続き、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF(上場投資信託証券)に投資し、米国のナスダック市場に上場する、時価総額上位100銘柄(除く金融業)の時価総額加重平均によって算出されるNASDAQ100インデックス(配当込み、円換算ベース)の値動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。

<SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド>

主としてETF(上場投資信託証券)に投資し、米国のナスダック市場に上場する、時価総額上位100銘柄(除く金融業)の時価総額加重平均によって算出されるNASDAQ100インデックス(配当込み、円換算ベース)に連動する投資成果を目指して運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2023年 8 月23日～2024年 8 月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	8 (3) (3) (2)	0.064 (0.024) (0.024) (0.015)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	—	—	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に 支払う手数料
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に 関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷)	10 (4) (3) (3)	0.084 (0.032) (0.022) (0.029)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管 及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等
合 計	18	0.148	
期中の平均基準価額は、11,824円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

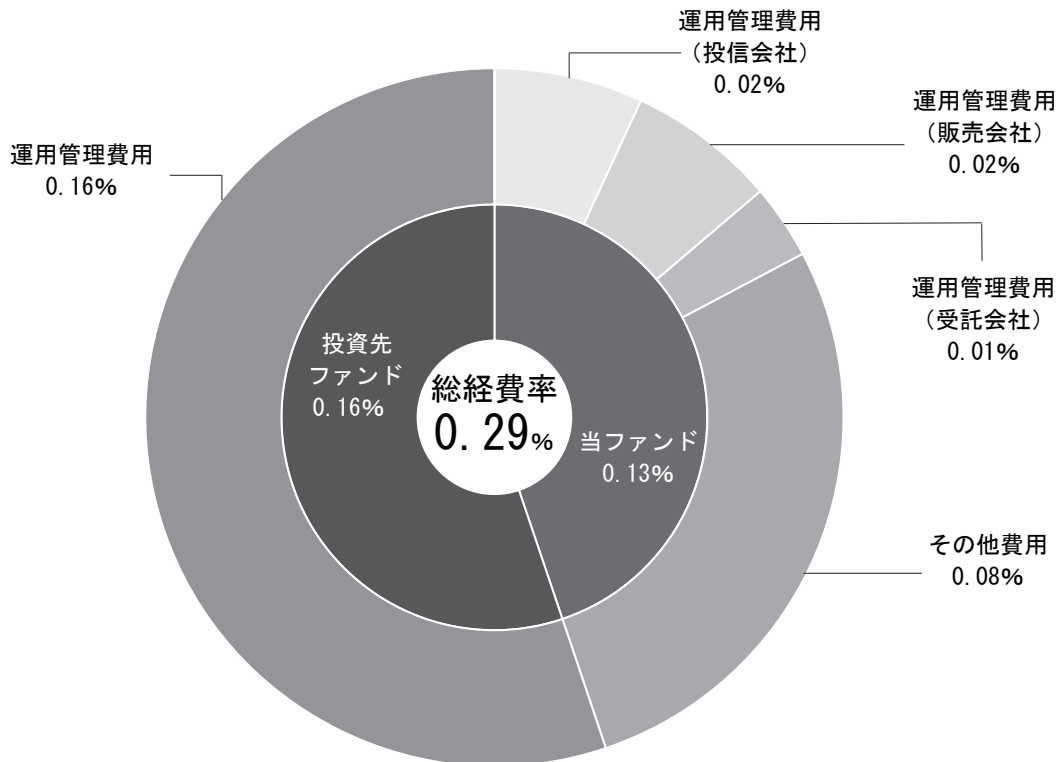
(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率(年率)**は**0.29%**です。



総経費率 (①+②)	0.29%
①当ファンドの費用の比率	0.13%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.16%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年8月23日～2024年8月22日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド	千口 4,549,554	千円 5,319,630	千口 1,267,548	千円 1,538,700

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年8月23日～2024年8月22日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年8月22日現在)

親投資信託残高

銘柄名	当期末	
	口数	評価額
SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド	千口 3,282,005	千円 4,318,463

(注) 単位未満は切捨て。

マザーファンドにおける組入資産の明細につきましては、後述のマザーファンドの「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2024年8月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド	4,318,463	99.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3,278	0.1
投 資 信 託 財 産 総 額	4,321,741	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建て純資産(4,263,084千円)の投資信託財産総額(4,333,592千円)に対する比率は98.4%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、8月22日における円換算レートは、1ドル=145.41円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年8月22日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	4,321,741,933円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	28,452
SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド(評価額)	4,318,463,481
未 収 入 金	3,250,000
(B)負 債	5,181,120
未 払 解 約 金	3,241,140
未 払 信 託 報 酬	1,214,530
そ の 他 未 払 費 用	725,450
(C)純 資 産 総 額(A - B)	4,316,560,813
元 本	3,284,331,614
次 期 繰 越 損 益 金	1,032,229,199
(D)受 益 権 総 口 数	3,284,331,614口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,143円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>
(貸借対照表関係)

期首元本額	300,683,650円
期中追加設定元本額	4,251,154,264円
期中一部解約元本額	1,267,506,300円

○損益の状況 (2023年8月23日~2024年8月22日)

項 目	当 期
(A)有 価 証 券 売 買 損 益	404,644,326円
売 買 益	525,251,873
売 買 損	△ 120,607,547
(B)信 託 報 酬 等	△ 2,826,634
(C)当 期 損 益 金 (A + B)	401,817,692
(D)追 加 信 託 差 損 益 金 (売 買 損 益 相 当 額)	630,411,507 (630,411,507)
(E) 計 (C + D)	1,032,229,199
(F)収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (E + F)	1,032,229,199
追 加 信 託 差 損 益 金 (配 当 等 相 当 額)	630,411,507 (2,337,959)
(売 買 損 益 相 当 額)	(628,073,548)
分 配 準 備 積 立 金	401,817,692

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(15,020,420円)、費用控除後の有価証券等損益額(386,797,272円)、および信託約款に規定する収益調整金(630,411,507円)より分配対象収益は1,032,229,199円(10,000口当たり3,142円)ですが、当期に分配した金額はありません。

NASDAQ 100 指数 (配当込み、円換算ベース) は、Nasdaq-100 Index をもとに、委託会社が計算したものです。本ファンドは、Nasdaq, Inc. またはその関連会社 (Nasdaq, Inc.、その関連会社と共に「Nasdaq社」と総称します。) によって、支援、承認、販売または促進されるものではありません。Nasdaq社 は、本ファンドに関する記述および開示の合法性、適合性、正確性または妥当性を保証するものではありません。Nasdaq社 は、本ファンドの投資者または公衆一般に対して、本ファンドへの投資の推奨および Nasdaq-100 Index の一般的な株式市場への追随可能性に関して、明示的または黙示的を問わず、表明または保証も行いません。SBIアセットマネジメント株式会社と Nasdaq社 の関係は、Nasdaq®、Nasdaq-100 Index® および QQQ の商標登録および Nasdaq社 の一定の商号の使用を許諾すること、ならびに SBIアセットマネジメント株式会社または本ファンドとは無関係に Nasdaq社 が決定、構築および算出を行う Nasdaq-100 Index の使用の許諾に限られます。Nasdaq社 は、Nasdaq-100 Index の決定、構築および計算を行う際に、SBIアセットマネジメント株式会社および本ファンドの投資者の要望を考慮するものではありません。Nasdaq社 は、本ファンドの発行タイミング、価格、数量、および本ファンドの換金に関する計算方法について責任を負わず、また関与しません。Nasdaq社 は、本ファンドの管理、マーケティングまたは取引について責任を負いません。Nasdaq社 は、Nasdaq-100 Index に含まれるデータの正確性および中断のない計算を保証するものではありません。Nasdaq社 は、Nasdaq-100 Index に含まれるデータを利用して、SBIアセットマネジメント株式会社、本ファンドの投資者およびその他のいかなる個人および団体に生じた結果に関して、明示的または黙示的を問わず、保証を行いません。Nasdaq社 は、明示的または黙示的を問わず保証を行わず、かつ、Nasdaq-100 Index またはその中に含まれるデータの使用に関する特定の目的に対する商品性または適合性について、明示的な全ての保証を否認します。先述の内容に限らず、Nasdaq社 は、いかなる逸失利益または特別、付随的、懲罰的もしくは間接的な損害について、当該損失の可能性について通知されたとしても、一切の責任を負いません。

第1期 運用報告書

(決算日 2024年8月22日)

SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンド

受益者のみなさまへ

SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・マザーファンドの第1期(2023年8月23日から2024年8月22日まで)の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは、次の通りです。

運用方針	NASDAQ100インデックス(配当込み、円換算ベース)と連動する投資成果を目標として運用を行います。
主要投資対象	ETF(上場投資信託証券)を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券(上場投資信託証券を除きます)への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 デリバティブの直接利用は行いません。 外国為替予約取引は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	期中 騰落率		期中 騰落率		
(設定日) 2023年8月23日	円 10,000	% —		% —	% —	百万円 300
1期(2024年8月22日)	13,158	31.6	13,246	32.5	98.6	4,318

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) ベンチマークは、NASDAQ100インデックス（配当込み）を委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
		騰落率		騰落率	
(設定日) 2023年8月23日	円 10,000	% —		% —	% —
8月末	10,301	3.0	10,303	3.0	101.7
9月末	10,030	0.3	10,030	0.3	99.4
10月末	9,786	△ 2.1	9,779	△ 2.2	99.1
11月末	10,731	7.3	10,740	7.4	98.8
12月末	10,938	9.4	10,955	9.6	99.7
2024年1月末	11,752	17.5	11,791	17.9	99.4
2月末	12,273	22.7	12,326	23.3	98.7
3月末	12,592	25.9	12,661	26.6	98.5
4月末	12,716	27.2	12,784	27.8	98.6
5月末	13,251	32.5	13,327	33.3	98.8
6月末	14,526	45.3	14,630	46.3	98.7
7月末	13,079	30.8	13,156	31.6	98.8
(期末) 2024年8月22日	13,158	31.6	13,246	32.5	98.6

(注1) 騰落率は設定日比です。

(注2) ベンチマークは、NASDAQ100インデックス（配当込み）を委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

ベンチマーク：NASDAQ100インデックス（配当込み）

NASDAQ100インデックス（配当込み）とは、米国のナスダック市場に上場する、時価総額上位100銘柄（除く金融業）の時価総額加重平均によって算出される株価指数です。

なお、NASDAQ100インデックス（配当込み）（円換算ベース）は、NASDAQ100インデックス（配当込み）をもとに、委託会社が円換算したものです。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2023年8月23日から2024年8月22日まで）

○基準価額等の推移



当マザーファンドの基準価額は設定日10,000円から始まったあと、期末には13,158円となりました。期を通じて騰落率は+31.6%となりました。

	設定日	期中高値	期中安値	期末
日付	2023/8/23	2024/7/11	2023/10/27	2024/8/22
基準価額 (円)	10,000	15,224	9,684	13,158

○投資環境

<米国株式市場>

米国株式市場は、当期中大幅に上昇しました。設定当初、NASDAQ100指数は15,000近辺で始まり、2023年9月に米国債の格下げや堅調な米小売売上高などを受けた長期金利の上昇が嫌気されたことでハイテク株などが売られ、10月は米連邦公開市場委員会（FOMC）を受け高金利長期化観測が強まる中、長期金利が一段と上昇し、米政府機関閉鎖への警戒感も重しとなり、10月26日には一時期中最安値となる14,050台まで下落しました。11月に入り、FOMCで追加利上げが強く示唆されなかったことや、米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化から長期金利が低下し、年末にはNASDAQ100指数は17,900台まで大きく上昇しました。年明け後も、台湾半導体大手の決算などが好感されてハイテク株が買われ、2024年2月も米上場の英半導体設計大手や米半導体大手エヌビディアの好決算などから株式市場の上昇が続き、3月のFOMCで年内3回の利下げ見通しを維持したことなどから、3月21日の18,400台まで上昇が続きました。4月に入り、米CPIが一転して上振れし、米連邦準備理事会（FRB）高官から利下げに慎重姿勢が示され、中東情勢の懸念も強まり、4月19日に17,000割れまで下落しました。その後、雇用統計の下振れを受けて米長期金利が低下に転じる中、一部企業の決算も好感され反発し、米CPI鈍化を受けFRBの利下げ観測が強まったことやAI（人工知能）関連銘柄の上昇から連日史上最高値を更新し、7月10日には20,690台まで上昇しました。期末にかけては、大手ハイテク株への資金集中に懸念が強まり、物色対象の変化がある中、8月初旬に日本株急落や米失業率上昇を受けて米景気後退懸念が強まり一時大幅に下落しましたが、小売売上高が上ぶれたことから米景気後退懸念が和らいでNASDAQ100指数は上昇し、19,000台半ばで当期を終えました。

<外国為替市場>

当期、米ドル／円相場は円安に動きました。設定当初は1ドル145円後半で始まり、米消費者物価指数（CPI）の上昇が鈍化せず、米金利上昇を受けて円安傾向が続き、2023年11月中旬に151円台まで円安／ドル高が進みました。その後、米CPIの伸び鈍化、米景気減速への懸念や、植田日銀総裁の発言からゼロ金利解除期待が強まって円高／ドル安傾向となり、12月末には141円近辺まで円高が進行しました。年明け2024年1月は、能登半島地震を受けて日銀の金融政策の正常化観測が後退する中、円安／ドル高が進展しましたが、その後、米CPIや米生産者物価指数（PPI）の伸びが上振れし、米連邦準備理事会（FRB）による利下げ観測が一段と後退する中、2月末にかけて150円までドルが上昇しました。3月は日銀金融政策会合でのマイナス金利解除への期待感から146円半ばまで円高が進みましたが、発表後も緩やかな金融環境の継続が改めて意識され、中東情勢の懸念も重なり円が急落し、4月29日に一時160円台に達しました。その直後に介入と見られる動きから151円台後半まで円高／ドル安が進みましたが、イエレン米財務長官の為替介入をめぐるけん制発言や堅調な雇用統計を受けてFRBの利下げ観測が後退し米金利が上昇し、7月3日には37年ぶりの161円後半まで円安／ドル高が進行しました。その後期末にかけては、日銀の追加利上げ観測や米CPIの下振れを受けて円高／ドル安が進み、146円台前半で当期を終えました。

○当ファンドのポートフォリオ

NASDAQ 100 インデックス（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果を目標として運用を運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、インベスコ キャピタル マネジメント LLCが運用を行う「インベスコ NASDAQ 100 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、95%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は98.6%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

期中における基準価額は、+31.6%の上昇となり、ベンチマークである「NASDAQ100インデックス（配当込み、円換算ベース）」の騰落率である+32.5%を概ね0.9%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

○今後の運用方針

主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、米国のナスダック市場に上場する、時価総額上位100銘柄（除く金融業）の時価総額加重平均によって算出されるNASDAQ100インデックス（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果を目指して運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2023年8月23日～2024年8月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売買委託手数料	円 —	% —	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税	—	—	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用)	4 (4)	0.032 (0.032)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
合 計	4	0.032	
期中の平均基準価額は、11,831円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2023年8月23日～2024年8月22日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ	口	千ドル	口	千ドル
	INVESCO QQQ TRUST SERIES 1	17,904	7,026	17,904	7,973
	INVESCO NASDAQ 100 ETF	159,426	28,048	11,954	2,137
小 計		177,330	35,075	29,858	10,111

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年8月23日～2024年8月22日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年8月22日現在)

外国投資信託証券

銘柄名	当 期 末			比 率
	口 数	評 価 額		
		外貨建金額	円換算金額	
(アメリカ) INVESCO NASDAQ 100 ETF	口 147,472	千ドル 29,287	千円 4,258,759	% 98.6
合 計	口 数 ・ 金 額 147,472	29,287	4,258,759	98.6
	銘柄数 < 比率 >	1	-	<98.6%>

(注1) 円換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。

(注2) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2024年8月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 受 益 証 券	千円 4,258,759	% 98.3
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	74,833	1.7
投 資 信 託 財 産 総 額	4,333,592	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建て純資産(4,263,084千円)の投資信託財産総額(4,333,592千円)に対する比率は98.4%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、8月22日における円換算レートは、1ドル=145.41円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年8月22日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	4,335,336,973円
コール・ローン等	68,983,981
投資信託受益証券(評価額)	4,258,759,239
未 収 入 金	1,744,662
未 収 配 当 金	5,848,915
未 収 利 息	176
(B)負 債	16,844,991
未 払 金	13,594,991
未 払 解 約 金	3,250,000
(C)純 資 産 総 額(A - B)	4,318,491,982
元 本	3,282,005,990
次 期 繰 越 損 益 金	1,036,485,992
(D)受 益 権 総 口 数	3,282,005,990口
1万口当たり基準価額(C / D)	13,158円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>
(貸借対照表関係)

期首元本額	300,670,000円
期中追加設定元本額	4,248,884,962円
期中一部解約元本額	1,267,548,972円
期末における元本の内訳	
SBI・インベスコQQQ・NASDAQ100インデックス・ファンド	3,282,005,990円

○損益の状況 (2023年8月23日～2024年8月22日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	14,827,563円
受 取 配 当 金	14,804,780
受 取 利 息	49,737
支 払 利 息	△ 26,954
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	523,493,848
売 買 益	636,243,477
売 買 損	△ 112,749,629
(C)そ の 他 費 用	△ 759,429
(D)当 期 損 益 金(A + B + C)	537,561,982
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	770,075,038
(F)解 約 差 損 益 金	△ 271,151,028
(G) 計 (D + E + F)	1,036,485,992
次 期 繰 越 損 益 金(G)	1,036,485,992

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<ご参考>組入投資信託証券の概要

投資信託証券の名称	投資対象	連動する指数	経費率(年率)	委託会社
インバスコ QQQ トラスト シリーズ1	米国株式	NASDAQ 1 0 0 インデックス	0.20%	インバスコ キャピタル マネジメント LLC

組入上位10銘柄	比率
Microsoft	8.6%
Apple	8.4%
Nvidia	7.9%
Amazon	5.2%
Broadcom	5.0%
Meta Platforms 'A'	4.6%
Alphabet 'A'	2.8%
Alphabet 'C'	2.7%
Costco Wholesale	2.5%
Tesla	2.5%

組入上位10業種	比率
テクノロジー	61.5%
一般消費財・サービス	17.5%
ヘルスケア	6.1%
資本財・サービス	4.1%
電気通信サービス	4.0%
生活必需品	3.3%
素材	1.7%
公益事業	1.2%
エネルギー	0.5%
不動産	0.2%

出所：インバスコ キャピタル マネジメント LLCの資料を基にSBIアセットマネジメントが作成
(注) 2024年6月30日時点の比率です。

投資信託証券の名称	投資対象	連動する指数	経費率(年率)	委託会社
インバスコ NASDAQ 1 0 0 ETF	米国株式	NASDAQ 1 0 0 インデックス	0.15%	インバスコ キャピタル マネジメント LLC

組入上位10銘柄	比率
Microsoft	8.6%
Apple	8.4%
Nvidia	7.9%
Amazon	5.2%
Broadcom	5.0%
Meta Platforms 'A'	4.6%
Alphabet 'A'	2.8%
Alphabet 'C'	2.7%
Costco Wholesale	2.5%
Tesla	2.5%

組入上位10業種	比率
テクノロジー	61.5%
一般消費財・サービス	17.5%
ヘルスケア	6.1%
資本財・サービス	4.1%
電気通信サービス	4.0%
生活必需品	3.3%
素材	1.7%
公益事業	1.2%
エネルギー	0.5%
不動産	0.2%

出所：インバスコ キャピタル マネジメント LLCの資料を基にSBIアセットマネジメントが作成
(注) 2024年6月30日時点の比率です。

上記組入投資信託証券は第1期期末時点で取得可能なデータを記載しており、将来変更される場合があります。